

1. 序 言

傷寒論の薬物の分量については、いろいろと矛盾する所が多く、傷寒論を学ぶものは一度は必ず疑問を抱く。

一つは、日本と中国における薬物の慣用量が違ふこと。

もう一つは、傷寒論には、斤や両という目方の単位のほかに、箇数や容量をもって示された薬物があるが、それらを実際に測ってみると、それらにいろいろの矛盾がある。

2. 傷寒論にでてくる薬物の分量の単位

(1) 重量で現わすもの

斤, 両, 分, 銖 . . . . . 大部分の薬物

(2) 容量で現わすもの

升, 合 . . . . . 芒硝, 半夏, 五味子, 膠飴, 麦門冬など

(3) 箇数で現わすもの

枚 . . . . . 大棗, 附子, 杏仁, 枳実など

箇 . . . . . 梔子, 桃仁, 水蛭, 虻虫

茎 . . . . . 葱白

把 . . . . . 竹葉

(4) 類型で現わすもの

鷄子大 . . . . . 石膏

3. 各単位相互の関係 (漢および現代)

(1) 重量について

表1. 重量の単位

漢時代	現代(中国)	(日本台湾)
斤 = 16 両	斤 = 16 両 = 600 グラム	
両 = 4 分 = 24 銖 $\Rightarrow$ 12 グラム*	両 = 10 匁 $\Rightarrow$ 37.5 グラム	
分 = 6 銖	匁 = 10 分 $\Rightarrow$ 37.5 グラム	
銖 = 100 黍 $\Rightarrow$ 0.5 グラム <sup>1000</sup>	分 = 10 厘	
さし (桑木実測)	(但し, 上海市斤 500 グラム)	

\* 諸橋敏次氏“新漢和辞典”によれば, 1 両 = 現在の 14 グラム

(2) 容量について

漢時代も現代も単位は同じ

1 斗 = 10 升, 1 升 = 10 合, 1 合 = 10 勺であるが内容が異なる。

漢時代の 1 升は現代の 1 合 1 勺強, 即ち約 200 c c である。

1500g  
160  
10-20g

3 l  
27g  
27g  
8.30

3 l  $\rightarrow$  1.5 l  
800g

2/3  
600  $\rightarrow$  300ml

#### 4. 重量の換算に関する諸説

漢時代の単位と現在の単位との関係について、容量については殆ど異論がないようであるが、重量についてはいろいろな説がある。

漢時代の重量の単位は、「漢書律歴志」から表1のような換算ができる。

岡田静黙の「薬方分量考」も漢書律歴志より、1両=2400黍とし、黍の目方を測定し、1両=2.8125匁としている。これをグラムに直すと 1両=10.5g となる。

即ち、1銖が100黍であるという立場に立つ限り、1両は10から14gの間であることは間違いないと思われる。

ところが、日本ではだいぶ事情が異なる。

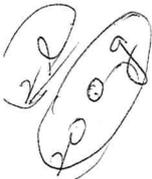
狩谷掖斎[「本朝度量權衡攷」(徳川時代)]は古医方の1両は漢の常用の10分の1量であるとし、今の0.37812匁として、約1.42gに相当する。

尾台榕堂の「類聚方広義」にも、漢代の1両=今の2.5分(約1g)としてあり、ちょうど中国の慣用量の10分の1に相当する。何故その様になったかというと、名医別録(「証類本草」による)に‘以十黍為一銖’とあり、この文は千金方にも載っていて、その後に‘此則神農之称也’と書いてあり、薬物を測るときは1両でも、常用の1両の10分の1であるということである。

このように、日本では殆どこの‘神農之称’というものを採用して、1両を1-1.4gに換算しているようである。即ち、日本の慣用量は中国の慣用量の約十分の一ということになる。

文献：国訳本草綱目第15冊 度量衡について

春陽堂 昭和9



小島學古，喜多村栲窓，山田椿庭等の考證学派の立論が正しいと信ずる。

今此考五考考

「時世通用の権」

「神農の称」・・・医方では，これの十分の一を用いる。

十銖	九銖	八銖	七銖	六銖	五銖	四銖	三銖	二銖	一銖	(漢代)	十兩	九兩	八兩	七兩	六兩	五兩	四兩	三兩	二兩	一兩	(漢代)	
一分四釐五豪	一分三釐〇五絲	一分一釐六豪	一分〇一豪五絲	八釐七豪	七釐二豪五絲	五釐八豪	四釐三豪五絲	二釐九豪	一釐四豪五絲	(德川時代)	三錢四分八釐	三錢一分三釐二豪	二錢七分八釐四豪	二錢四分三釐六豪	二錢〇八釐八豪	一錢七分八釐	一錢三分九釐二豪	一錢〇四釐四豪	六分九釐六豪	三分四釐八豪	三分四釐八豪	(德川時代)
約〇・五g	約〇・四八g	約〇・四g	約〇・三七g	約〇・三g	約〇・二七g	約〇・二g	約〇・一六g	約〇・一g	約〇・〇五g	(昭和時代)	約一三・〇g	約一一・七g	約一〇・四g	約九・〇g	約七・八g	約六・六g	約五・二g	約三・九g	約二・七g	約一・三g	約一・三g	(昭和時代)

十分	九分	八分	七分	六分	五分	四分	三分	二分	一分	(漢代)	一斤	一斤	二斤	(漢代)	斗	升	合	藥升	(漢代)	(德川時代)	(昭和時代)		
八分七釐	七分八釐三豪	六分九釐六豪	六分〇九豪	五分二釐二豪	四分三釐五豪	三分四釐八豪	二分六釐一豪	一分七釐四豪	八釐七豪	(德川時代)	五錢五分六釐八豪	五錢五分六釐八豪	十一錢一分三釐六豪	(昭和時代)	一升一合強	一合一勺強	一勺強	約二〇〇〇ml	約二〇〇〇ml	約二〇〇ml	約二〇〇ml	(昭和時代)	
約三・二g	約二・九g	約二・六g	約二・三g	約二・〇g	約一・六g	約一・三g	約一・〇g	約〇・六g	約〇・三g	(昭和時代)	約二〇・八g	約二〇・八g	約四一・七g	(昭和時代)									

分には、二通りある。一つは、裁分の方で、重量ではない。他の一つは、六銖を一分とするものである。これを表示すると、次の通りである。

1. 序 言

傷寒論の薬物の分量については、いろいろと矛盾する所が多く、傷寒論を学ぶものは一度は必ず疑問を抱く。

一つは、日本と中国における薬物の慣用量が違うこと。

もう一つは、傷寒論には、斤や両という目方の単位のほかに、箇数や容量をもって示された薬物があるが、それらを実際に測ってみると、それらにいろいろの矛盾がある。

2. 傷寒論にでてくる薬物の分量の単位

(1) 重量で現わすもの

斤, 両, 分, 銖 . . . . . 大部分の薬物

(2) 容量で現わすもの

升, 合 . . . . . 芒硝, 半夏, 五味子, 膠飴, 麦門冬など

(3) 箇数で現わすもの

枚 . . . . . 大棗, 附子, 杏仁, 枳実など

箇 . . . . . 梔子, 桃仁, 水蛭, 虻虫

茎 . . . . . 葱白

把 . . . . . 竹葉

(4) 類型で現わすもの

鷄子大 . . . . . 石膏

3. 各单位相互の関係 (漢および現代)

(1) 重量について

表1. 重量の単位

漢時代	現代 (中国)
斤 = 16 両	斤 = 16 両 = 600 グラム (日本台湾)
両 = 4 分 = 24 銖 ⇨ 12 グラム*	両 = 10 匁 ⇨ 37.5 グラム
分 = 6 銖	匁 = 10 分 ⇨ 37.5 グラム
銖 = 100 黍 ⇨ 0.5 グラム <sup>5000</sup>	分 = 10 厘
(桑木実測)	(但し, 上海市斤 500 グラム)

\* 諸橋徹次氏 "新漢和辞典" によれば, 1 両 = 現在の 14 グラム

(2) 容量について

漢時代も現代も単位は同じ

1 斗 = 10 升, 1 升 = 10 合, 1 合 = 10 勺であるが内容が異なる。

漢時代の 1 升は現代の 1 合 1 勺強, 即ち約 200 c c である。

1500g  
160  
10~20g

3 l  
27g  
27g  
5 (30)

3 l → 1.5 l  
800g

2/3  
600 → 300 and

中国度量衡の単位とその変遷

周・春秋・戦国時代の

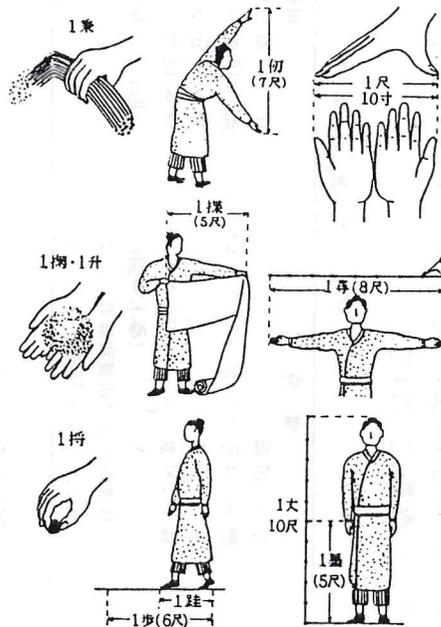
度量衡換算表

	単位の名	他の単位との比	メートル法換算
度 (ながさ)	寸		2.25cm
	尺(周の大尺)	10寸	22.5cm
	咫(周の小尺)	8寸	18cm
	丈	10尺	225cm
	仞	7尺	157.5cm
	尋	8尺	180cm
	常	16尺	360cm
	揲	5尺	112.5cm
	端	20尺	450cm
	匹	40尺	9m
	跬	3尺	67.5cm
面積	畝	10歩平方, 100方歩	1.82a
	頃	100畝	182a
衡 (めかた)	銖	24銖	0.67g
	兩	$\frac{2}{3}$ 兩	16g
	鈞	16兩	108.9g
	鈞	30斤	256g
量 (かさ)	龠	10龠	0.00194l
	合	10合	0.0194l
	升	10升	1.94l
	斛	10斗	19.4l
	豆	4升	0.776l
	区	4豆, 16升	3.104l
	釜	4区, 64升	12.416l
	鍾	4釜, 256升	49.664l

おもな

	周・春秋・戦国・前漢 前10~前1世紀	新・後漢 1~3世紀	魏 3世紀
分 (cm)		0.2304	0.2412
寸 (cm)	2.25	2.304	2.412
尺 (cm)	22.5	23.04	24.12
丈 (m)	2.25	2.304	2.412
歩 (m)	1.35	6尺, 1.3824	6尺, 1.4472
里 (m)	405	300歩, 414.72	300歩, 434.16
畝 (a)	100万歩, 1.82	4.58647	5.02653
頃 (a)	182	458.647	502.653
錢 (g)			
兩 (g)	16	13.92	13.92
斤 (g)	256	222.73	222.73
石・担 (kg)		120斤, 26.728	120斤, 26.728
勺 (dl)			0.02023
合 (dl)	0.194	0.1981	0.2023
升 (l)	0.194	0.1981	0.2023
斗 (l)	1.94	1.981	2.023
石 (l)			

参考図



度量衡の単位の時代別変遷表

隋 6~7世紀	唐 7~10世紀	宋・元 10~14世紀	明 14~17世紀	清 17~20世紀	現代中国 20世紀	日本 20世紀
0.2951 2.951 29.51 2.951 6尺, 1.7706 300歩, 531.18	0.311 3.11 31.1 3.11 5尺, 1.555 360歩, 559.8	0.3072 3.072 30.72 3.072 5尺, 1.536 360歩, 552.96	0.311 3.11 31.1 3.11 5尺, 1.555 360歩, 559.8	0.32 3.2 32 3.2 5尺, 1.6 360歩, 576	0.333 3.33 33.3 3.33 5尺, 1.666 300歩, 500	0.303 3.03 30.3 3.03 3927
7.524 752.4	5.80326 580.326	5.66254 566.254	5.80326 580.326	6.144 614.4	6.666 666.6	0.99174
41.76 668.19 120斤, 80.183	3.73 37.3 37.3 596.82 120斤, 71.618	3.73 37.3 37.3 596.82 120斤, 71.618	3.73 37.3 37.3 596.82 120斤, 71.618	3.73 37.3 37.3 596.82 100斤, 59.682	3.125 31.25 500 100斤, 50	600
0.05944 0.5944 0.5944 5.944	0.05944 0.5944 0.5944 5.944	0.09488 0.9488 0.9488 9.488	0.17037 1.7037 1.7037 17.037	0.10355 1.0355 1.0355 10.355	0.1 1 1 10	0.18039 1.8039 1.8039 18.039
		94.88	170.37	103.55	100	180.39

清朝の度量衡単位一覧表

	単位の名	他の単位との比	メートル法換算
度 (ながさ)	毫	10000分の1尺	0.0032cm
	厘	1000分の1尺	0.032cm
	分	100分の1尺	0.32cm
	寸	10分の1尺	3.2cm
	尺(营造尺)	10寸	32cm
	丈	10尺	320cm
	歩	5尺	160cm
里	360歩, 1800尺	576m	
面積	分	10分の1畝	0.6144a
	畝	240方歩	6.144a
	頃	100畝	614.4a
衡 (めかた)	錢	10分の1兩	3.73g
	兩(庫平兩)	16分の1斤	37.3g
	斤(庫平斤)	16兩	596.82g
量 (かさ)	撮	1000分の1升	0.010355dl
	勺	100分の1升	0.10355dl
	合	10分の1升	1.0355dl
	升(漕斛升)	10合	10.355l
	斗	10升	103.55l

現代中国の度量衡単位一覧表

	単位の名	他の単位との比	メートル法換算
度 (ながさ)	市分	100分の1市尺	0.333cm
	市寸	10分の1市尺	3.33cm
	市尺	10市寸	33.3cm
	市丈	10市尺	333cm
	市里	1500市尺	500m
面積	市分	10分の1市畝	0.6666a
	市畝	10市分	6.666a
	市頃	100市畝	666.6a
衡 (めかた)	市錢	10分の1市兩	3.125g
	市兩	16分の1市斤	31.25g
	市斤	16市兩	500g
	市担	100市斤	50kg
量 (かさ)	市撮	1000分の1市升	0.01dl
	市勺	100分の1市升	0.1dl
	市合	10分の1市升	0.1l
	市斗	10市合	1l
	市升	10市斗	10l
	市石	100市升	100l

#### 4. 重量の換算に関する諸説

漢時代の単位と現在の単位との関係について、容量については殆ど異論がないようであるが、重量についてはいろいろな説がある。

漢時代の重量の単位は、「漢書律歴志」から表1のような換算ができる。

岡田静黙の「薬方分量考」も漢書律歴志より、1両=2400黍とし、黍の目方を測定し、1両=2.8125匁としている。これをグラムに直すと 1両=10.5g となる。

即ち、1銖が100黍であるという立場に立つ限り、1両は10から14gの間であることは間違いないと思われる。

ところが、日本ではだいぶ事情が異なる。

狩谷掖斎[「本朝度量權衡攷」(徳川時代)]は古医方の1両は漢の常用の10分の1量であるとし、今の0.37812匁として、約1.42gに相当する。

尾台榕堂の「類聚方広義」にも、漢代の1両=今の2.5分(約1g)としてあり、ちょうど中国の慣用量の10分の1に相当する。何故その様になったかというと、名医別録(「証類本草」による)に‘以十黍為一銖’とあり、この文は千金方にも載っていて、その後に‘此則神農之稱也’と書いてあり、薬物を測るときは1両でも、常用の1両の10分の1であるということである。

このように、日本では殆どこの‘神農之稱’というものを採用して、1両を1-1.4gに換算しているようである。即ち、日本の慣用量は中国の慣用量の約十分の一ということになる。

文献：国訳本草綱目第15冊 度量衡について

春陽堂 昭和9

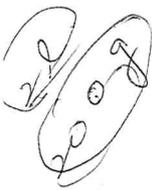


表4. 薬方中に占めるそれら薬物の位置(1)

薬方名	薬物名	原典	中国の慣用量	日本の慣用量	実測値
桂枝湯	桂枝	3 両	30~35 グラム	4 ~4.5 グラム	
	芍薬	〃	〃	〃	
	生姜	〃	〃	3 ~4 グラム	
大棗	大棗	12 枚	12 箇	3.5~4 グラム	60~70 グラム
	甘草	2 両	20~25 グラム	2 ~2.5 グラム	
麻杏甘石湯	麻黄	4 両	40~50 グラム	4 ~5 グラム	
	杏仁	50 箇	50 箇	4 ~4.5 グラム	15 グラム
	甘草	2 両	20~25 グラム	2 ~3.5 グラム	
大青龙湯	石膏	半斤	80~100 グラム	10~15 グラム	
	麻黄	6 両	60~70 グラム	5 ~6 グラム	
	桂枝	2 両	20~25 グラム	3 ~3.5 グラム	
	甘草	〃	〃	2 ~2.5 グラム	
	杏仁	40 枚	40 箇	3.5~5 グラム	12 グラム
小青龙湯	生薑	3 両	30~35 グラム	2 ~3 グラム	
	大棗	10 枚	10 箇	3 グラム	50~60 グラム
	石膏	如雞子	鶏卵大	10~15 グラム	60~80 グラム
	麻黄	3 両	30~35 グラム	3 グラム	
小青龍湯	芍薬	〃	〃	〃	
	乾姜	〃	〃	1.5~3 グラム	
	甘草	〃	〃	2 ~3 グラム	
	桂枝	〃	〃	3 グラム	
	細辛	〃	〃	2 ~3 グラム	
	五味子	半升	半合	1.5~5 グラム	45 グラム
	半夏	半升	半合	3.5~6 グラム	60 グラム

表5. 薬方中に占めるそれら薬物の位置(2)

薬方名	薬物名	原典	中国の慣用量	日本の慣用量	実測値
大承気湯	大黄	4 両	40~50 グラム	2 グラム	
	枳実	5 枚	5 箇	3 グラム	17 グラム
	芒硝	3 合	3 勺	3 グラム	70 グラム
	厚朴	半斤	80~100 グラム	5 グラム	
桃核承気湯	桃仁	50 箇	50 箇	4.5~5 グラム	15 グラム
	桂枝	2 両	20~25 グラム	4 ~4.5 グラム	
	芒硝	〃	〃	2 ~3.5 グラム	
	大黄	4 両	40~50 グラム	1.5~3 グラム	
竹葉石膏湯	甘草	2 両	20~25 グラム	1.5~2 グラム	
	竹葉	2 把	2 把	2 グラム	(本草序例 1 把=2 両)
	石膏	1 斤	160~180 グラム	10~15 グラム	
	半夏	半升	半合	4~4.5 グラム	60 グラム
	麦門冬	1 升	1 合	6 グラム	100 グラム
	人参	2 両	20~25 グラム	2~3 グラム	
呉茱萸湯	甘草	1 両	10~12 グラム	2~2.5 グラム	
	梗米	半升	半合	6~8 グラム	75 グラム
	呉茱萸	1 升	1 合	3~4 グラム	75 グラム
人参湯	人参	3 両	30~35 グラム	2 ~3 グラム	
	生姜	6 両	60~70 グラム	4 ~6 グラム	
	大棗	12 枚	12 箇	2 ~4 グラム	60~70 グラム

小島學古、喜多村栲窓、山田椿庭等の考證学派の立論が正しいと信ずる。

今丸五等考

「時世通用の権」

「神農の称」・・・医方では、これの十分の一を用いる。

兩																					
十銖	九銖	八銖	七銖	六銖	五銖	四銖	三銖	二銖	一銖	(漢代)	十兩	九兩	八兩	七兩	六兩	五兩	四兩	三兩	二兩	一兩	(漢代)
一分四釐五豪	一分三釐〇五絲	一分一釐六豪	一分〇一豪五絲	八釐七豪	七釐二豪五絲	五釐八豪	四釐三豪五絲	二釐九豪	一釐四豪五絲	(徳川時代)	三錢四分八釐	三錢一分三釐二豪	二錢七分八釐四豪	二錢四分三釐六豪	二錢〇八釐八豪	一錢七分八釐	一錢三分九釐二豪	一錢〇四釐四豪	六分九釐六豪	三分四釐八豪	(徳川時代)
約 〇・五g	約 〇・四八g	約 〇・四g	約 〇・三七g	約 〇・三g	約 〇・二七g	約 〇・二g	約 〇・一六g	約 〇・一g	約 〇・〇五g	(昭和時代)	約 一三・〇g	約 一一・七g	約 一〇・四g	約 九・〇g	約 七・八g	約 六・六g	約 五・二g	約 三・九g	約 二・七g	約 一・三g	(昭和時代)

分																	
十分	九分	八分	七分	六分	五分	四分	三分	二分	一分	(漢代)	一斤	一斤	(徳川時代)	斗	升	合	(漢代)
八分七釐	七分八釐三豪	六分九釐六豪	六分〇九豪	五分二釐二豪	四分三釐五豪	三分四釐八豪	二分六釐一豪	一分七釐四豪	八釐七豪	(徳川時代)	五錢五分六釐八豪	十一錢一分三釐六豪	二升一合強	一合一勺強	一勺強	(徳川時代)	
約 三・二g	約 二・九g	約 二・六g	約 二・三g	約 二・〇g	約 一・六g	約 一・三g	約 一・〇g	約 〇・六g	約 〇・三g	(昭和時代)	約 二〇・八g	約 四一・七g	約 二〇〇ml	約 二〇〇ml	約 二〇ml	(昭和時代)	

分には、二通りある。一つは、裁分の方で、重量ではない。他の一つは、六銖を一分とするものである。これを表示すると、次の通りである。

両国間の薬の用量が相違する所以については、今に始まったことではなく、江戸時代でも色々と言われていたらしい。例えば、貝原益軒は『養生訓』で

1. 薬物の相違

当要因の占める比重は割合高いと思われる

(1) 生薬の裁断

(2) 生薬の修治

(3) <sup>生</sup>薬の品質

2. 水質の相違

浪華の水と中国の水 山本巖 「漢方研究」1982 2月号

3. 体質の相違

体質を人種的なし先天的なものとし、後天的・可變的と考えるなら・・・

(1) 気候・風土

(2) 香辛料

(3) 生薬への慣れ

4. 日中伝統医学の相違

あくまでも用量に係わる相違について

(1) 医療中の役割と環境

(2) 処方法の運用法